

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	俳句：文苑
Author(s)	紫川
Citation	龍南會雜誌， 79： 70 - 71
Issue date	1900-06-05
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/5582
Right	

東郭先生批點

俳句

春の句

紫川

鮒 膾

正月より三月に至る迄、専ら近江の鮒魚、これを源五郎鮒と云。傳へ云、漁人源五郎始めて膾をさる、其大なるものを鮒と稱す。截て膾とするに堪たり、京、近江の人事實之。

(紀事)

赤くえて長き箸なり 鮒膾

無作法に盛りたる皿や 鮒膾

舟宿に舟をまつ間や 鮒膾

蓴菜の青さも添へて 鮒膾

舟つけて上る酒樓や 鮒膾

辛きもの少し添へたり 鮒膾

種 卸

凡、田を作る彼岸の前十日、穀を水にひたす彼岸の後十日取出して種をおろす。之を苗代と云、六七日をへて苗生す。(和漢三才圖會)俗に種ひたしを又種卸と云。

泥臭き小池の水や 種卸

一村の種を卸せし小川かな
一つ家の種も卸えて晝餉かな
焼跡の種卸したる小池かな
稍小き種の俵に貧しかり
種卸三すぢの繩をたよりかな

雉子畑

我郷の俗、山林に小き畑を作り麥を蒔き、雉子を誘ひて墾つ。之を雉子畑と云。雉子は春季なり、故に雉子畑も亦春季なり。

獵夫の窺ひよりぬ 雉子畑
青麥の三寸にえて 雉子畑
うちとめし雉子の猛りや 雉子畑
つとめてや雉子をまつまの 雉子畑
森蔭やあらぬ所に 雉子畑
麥蒔いて閑なる山や 雉子畑

繪 踏

肥前長崎、五島、大村、平戸、此處にて、男女に限らず、繪ぶみす。是れは邪宗を禁ぜしめ給ふによれり。(吾山遺稿)

押え分けて村長出づる繪踏かな
繪踏してうつゝ心や小半日

二三人さゝやき合ひて繪踏かな

雜 報

謹みて中川學校長を送る

四月十六日、揭示出づ。曰く、中川學校長、第二高等學校に轉任せらる。と、吾人一度は其事の餘りに唐突なるに駭き、更らに今昔を感懷して、覺えず愁然たりき。

學校長が、第四高等中學校より、遙々と任に此地に來給ひしは、實に明治二十六年の春にてありき。當時、本校の基礎、なほ未だ甚だ固からず。其設備の如きも、頗る缺如するところ多かりしが、爾來、拮据勉勵、經營に經營をつまれ苦心に苦心を重ねられたる結果は、諸事総て面目を革め、校運日を逐うて盛んに、遂に今日の隆況に到達したるは、吾人の先づ以て其効績を稱へまつらむと欲するところのものなり。特に

村長の娘怪しき繪踏かな
役人のえたり顔なる繪踏かな
えづ心繪踏の臺に上りけり

大學豫科に於ける三部の設置、引つゞきて、工學部の新設の如きは、學校長が殆ど一身を賭えて、百方經營せられえもの、今に至りて其恩澤を被るもの、最も感謝せざる可らざるなり。

抑も、人の材能には、長所あり、短所あり。一見すれば愚人の如く、其胸裏には、何等の術策も動かざるが如くにして、えかも能く人に長として、衆を統御するに妙を得たる人あり。或は敏捷達才、事務を裁すると、恰も竹を割るが如き人にえて、而して却て衆心を得るに苦む者あり。蓋て天賦のみ。獨、我校長の如きは、實に後者の所謂敏捷達才を失はれずして、而えて能く人に長たるの材質を、享受せられたる人なりと謂はざる可らず。看よ、轉任、又轉任、殆ど秋空、猫眼も雷ならざる輓近の教育界に於て、前後八年に亘るの長年月間、一の失体をも惹起